

特43

659

吉  
認  
可

弘  
道  
新  
說

No 4624

精書

此册係錄修身要語以頌大成會員者也分爲三項

第一項論教育之主旨品行之方法德義之妙用而每

册揭其目以明要旨

第二項爲言行襍錄大凡古今人士嘉言善行可以爲

範則錄之會員所寄論說亦載于此而其言之過簡過

激或未完全則編者不能任其責也

第三項爲詩文襍評錄詩文關於風教者也而文雅之

可愛者亦間取之蓋文章之道固主立教傳道雖然非

妙于辭敏于筆者不能感人心動人意故有取于詞也

以爲學文章之方而已。

明治二十一年一月

南岳藤澤恒識

弘道新說

藤澤南岳 述

未曾有ノ世ニ遇テ喜フ

余去月河内地方ニ遊フ十有餘日、山谷ニ來往シ、村落ニ逍遙シテ、大ニ今古ノ感ヲ興セリ、カク云ハ、人必ツ云フ、諸帝ノ陵ヲ拜シテ、上古ノ盛美ヲ慕ヘルカ、處々ノ大伽藍ヲ見テ、佛法ノ昌隆ナリシニ感シタルカ、南朝諸將ノ大義勇烈ニ激動セラル、カ、將近時僻邑陬土モ皆奢侈ニ過タル事ニ驚キテ、古昔ノ淳朴ヲ思ヒタルヲソト、決シテ然ルニ非ズ、古風ノ美ヲ見テ、却テ當今ニ生レタルノ大至幸ヲ

喜ヒ、世人ノ或ハ古昔ニ生レタキト古ヲ羨メル人ヲ咲フ  
ナリ、

何ソ然ルトナレハ、本邦ノ上古ハ窺フベカラズ、故ニ

應神帝以來ヲ以テ自ラ顧ルニ、法度大ニ美ニシテ、區畫森  
然タリ、若此時ニ生レ得テ、功ヲ成シ業ヲ起スヲ求メハ、文  
ハ僅ニ書アリ、武ハ弓馬ニ止マリ、三韓ヲ奴隸使スルニ過  
キス、此時ニオクル、二百年ニシテ生ルレハ、百濟ヨリ佛  
法ヲ傳ヘシ時ナルガ、其是トカ非トカノ議論ニ紛々トシ  
テ、格外ニ意見ヲ他ニ伸ブル能ハザラシカ、又延曆ノ間ニ  
生ル、モ、外國ノ唐ナル者アルヲ知ルノミニシテ、幸ニ其

地ニ遊フモ、治法文章ヲ聞見スルニ過キズ、歸朝スルモ、直  
ニ政ニアツカルト云フハナラズ、故ニ豪傑ノ士、多クハ僧  
トナリ、人民ノ誘化ニ力ヲ盡ス、豈今日ノ材藝ヲ逞クス可  
アラシ、又承平天慶ノ比ニアハセ、戰爭ノ時ニシテ、武ニ從  
事スルヲ、貴位ニ進ミ美名ヲ搏スルノ途トナス、然レドモ、  
將門純友等ト鋒ヲ争フノミナリ、降テ源平ノ戰爭ヨリ、織  
田豐臣ノ比マデ、小異同アレド、大抵武ヲ尙ニ過ズ、寛永以  
降ニ生ル、モ、文武ノ虛藝ニ誇ルノミ、何ソ治術ヲ講シ、又  
容易ニ政柄ヲ握ルヲ得シヤ、稍々海外諸國ノ事ヲ知ル有  
ルモ、禁制嚴密ニシテ、十分ニ手ヲ出ス可カラズ、小キ箱ノ

中ニ在ル如キナリ、此時ニ生ル、不幸ト云ベシ、

禹域ノ土ヲ以テ云フモ、亦然リ、三皇ノ時ハ漠タリ、先堯舜ノ時ニ生レハ、幸ト思フ人多カラシ、然レモ、徳ヲ修テ二十二人ノ列ニ加ルハ難カラシ、退テ事功ヲ圖ルモ、別ニ爲スベキナク、九州アルヲ知テ、全世界ハ夢ニモ見ズ、見ルモ益ナキ時ナレハ、狭小ノ世界ナリ、周ノ比ニハ、文物稍々美ト雖モ、讀ム所ノ書ハ詩書、行フ所ハ禮樂射御、戰國ニ降りテ、諸子出テ奇説ヲ唱ヘ、恠論ヲ吐モ、皆實用ニ疎ナル多ク、遂ニ競争ノ場中ニ、日月ヲ閑過セリ、漢ニ至リテ、書籍モ多ク、且西域等ノ交モ開ケタリ、然レモ若此世ニ生レタルモ、到

底吏術ニ心ヲ用ユルカ、武事ニ力ヲ用ニルカ、將文章ニ力ヲ極ムルノミ、班超ナトガ西域ニ飛出テ、匈奴ノ使ヲ斬テ、外國ヲ畏伏セシムル如キハ、得ガタカルベシ、唐宋ニ至テ、事功モ多ク、書籍モ牛ニ汗スルホドアリ、猶邦内ノ事ニ從フバカリニシテ、豁然ト眼ヲ宇内ニ放ツヲ得ズ、南宋ノ比ニモ、金アルヲ畏レテ、元ノ起ルヲ知ラズ、元ヲ畏レテ、竟ニ國勢ヲ擴張スル能ハズ、若此世ニ生レハ、邊鄙ノ勇將義士タラズレハ、道學先生タルニ過ズ、明代モ亦然リ、然レハ此間ニ生ル、豈幸トセシヤ、

歐羅巴中ノ最モ古キ國ヲ以テ云ヘハ、意大利ナリ、意大利

ハ大國四ツ、小國五ツニ分レタリ、其中ノ羅馬ナル者、最モ  
強盛ナリ、此國ハ後漢書ニ見エタル大秦國ナリ、今此國ヲ  
以テ云ハシニ、上古羅馬ノ始テ國ヲタツル時ニ生レ合  
モ、其戰ヲ習ハシ耕ヲ教フルノ、輔助ヲナスノミニテ、他ニ  
從事スル所ナク、降テ西比揚ガ阿非利加洲ノ加爾達額  
國ト戰ヒ、其將漢尼巴ヲ破ル時ニ値フニ、一分ノ功ヲ奏ス  
ルニ過ズシテ、眼中ニ唯加爾達額カ強敵タルヲ知ル而已  
ナラシ、吾

開化帝ノ比ニ當テ、羅馬大將馬黎約大ニ四方ヲ威服シ、地  
中海南岸ノ諸部モ、悉ク版圖ニ入レタリ、此時ニ値フモ、未

ダ東ノ秦漢ノ書ハ讀得ザルベシ、稍々オクシテ安敦國王之名  
ノ時ニ値フモ、此人博識賢明、律度ヲ立テ、中興ノ良主ト云  
ハシタレハ、事功ニ力ヲ致スベキ多カラシ、然レニ、東ニ後  
漢アリ、北ニ匈奴アリ、之ト對峙シ、匈奴ハ攻撃シテ退ケタ  
レド、漢エハ使者ヲ發シテ交リタリ、亦一時漢ノ文物法制  
ヲ仰キ羨ムニ過ザルノミ、又一轉シテ、宗教ヲ争フ時トナ  
リ、紛々ノ論議タヘザルナレハ、若此時ニ生レハ、回々又ハ  
洋教等ノ是非ヲ争フ陷阱ニ入り、何ソ今日ノ列國並峙シ  
氣脈相通ズルノ美ヲ見ルヲ得シヤ、希臘土耳其格モ舊國ナ  
リ、亦皆然リ、然レハ古昔ノ美ヲ羨ニ足ラザル事ニシテ、當

今ニ生レタルヲ吾カ生ノ大至幸ト云フ可キナリ、  
萬里ノ遙ナルヲ望シテ、宇ナル者ヲ知り、万歳ノ昔ヲ願ミ  
テ、宙ナル者ヲ知ル、其知ルヤ豈ニ易クナラシ、今ヤ奔走ノ  
勞ヲ厭ハズ、船舶ニ托スレハ、歐山米海モ、目撃スル事ヲ得  
テ、宇ナル者ノ甚ク狭キヲ覺フ、書籍ニ從事セハ、往古ノ事  
ヲ悟ル事ナリヤスシ、サレバ宙ノ小ナルヲ覺フ、宇宙ノ二  
ツヲ狭小トシ、又法律經濟モ、其書大ニ備具スレハ、歐人ノ  
主腦モ探ルベク、他ノ奇聞ヲ聞キ、異説ヲ聞ヒ、怪事ヲ見テ、  
以テ吾學ヲ練磨スベク、萬國ヲ一家視スルハ、吾生ノ大幸  
樂ナラズヤ、若又青年諸君ニ在テモ、小學中學大學校ノ備

ヘアレハ、此ニ從事シ、其材德ニ從テ、追々會社長タルモ、官  
衙ニ廁リ、又執政大臣ノ中ニ列スルモ、自由ナリ、實ニ二千  
年來未曾有ノ日ニ値ヘルト云フベシ、  
其最モ喜フ可ハ、自治主義ニ在リ、凡人タル者、誰カ其身ノ  
大切ナルト、其家ノ重トヲ知ラザラシヤ、前冊中ニ屢々論  
セル如キナリ、サレハ必ス自ラ治ムルノ心ヲ盡サザラシ、  
又豈ニ他ノ制御ヲ待タシ、此レ人ノ靈タル所以ナリ、乃チ  
吾カ會員タル人、宜シク此ニ心ヲ留メ、本會ヲ大成自治ノ  
會ト認可シテ、工夫ヲ盡サレシ事ヲ願フ、  
抑此大至幸ノ時ニ生レタル人々ニハ、定テ古人二十倍百

倍セル人才ノ出現セント、眼ヲ凝シテ相待テリ、果シテ智  
ヲ進メ、識ヲ博クスルハ、讀書ト經歷トノ二點ニ止ルト、皆  
々奮勵シテ、力ヲオシマザルハ、大ニ喜フベキナリ、隨テ其  
論說スル所ヲ聞ケハ、或ハ云フ、利ハ天下第一ノ重大ナル  
者ナレハ、必先我身ニ利アルヲ旨トシテ、利益ヲ其手ニ握  
ルベシ、此ヲ實利トスト云テ、楊朱然タル口氣アリ、或ハ云  
フ、身ノ便利ヲ而已ハカリテ、他人ニ損害ヲ與フルハ、公平  
ノ理ニ非ス、必ス公衆ト利益ヲ共ニス可シト、或ハ云フ、文  
明ハ法律ニ在リ、故ニ獨逸佛狼西等ヲ第一トスト、或ハ支  
那文明論ナドヲ著ハシテ、眞ノ文明ハ仁義道德ニ在ト云

ヒ、或ハ居室ヲ美麗ニシ、衣服ヲ鮮明ニスルヲ、人世ノ文華、  
歐米ノ妙處ト云ヒ、或ハ云フ、奢侈ハ、我身ノ讎敵ナリ、決テ  
近ヅク可カラズト、或ハ云フ、世ヲ救フハ、財貨ヲ散スルニ  
在リ、宜シク慈惠ヲ旨トシテ、會社ヲ創立シ、學校ニ施與ス  
ベシト、或ハ云フ、財貨ハ身ニ有スベシ、猥ニ他人ニ與フベ  
カラズ、是ヲ經濟ノ本トスト、或ハ云フ、人ノ精神ハ至重ニ  
シテ、長ク天地ノ間ニ存ス、故ニ其人死スルモ、七日ゴトニ  
祭ヲ設ケ、又一年二年ト、逐次ニ祭ル可シ、必感通シテ來リ  
享ト、是ハ佛家ノ說ト同様ナルガ、即チ羅馬ノカソリカ教  
會ニ原ヅクト云ヘリ、或ハ云フ、人ハ死スレハ、靈魂ハ消滅



シテ存セズ之ヲ祭ルハ無益ナリト、是ハ米國耶蘇師アツ  
キソソ等カ主張スル所ナリ、或ハ云フ、字ハ羅馬ヲ正ト  
ス、字内ノ事、必此字ヲ用ヒテ可ナリト、遂ニ字會ヲ創ムル  
ナリ、或ハ云フ、國國ノ言語一定セザルヲ、天理トス、サレハ  
我邦ノ語ヲ録スルニ、他方ノ字ヲ用ユルハ、歐人モ此ヲ笑  
フ、吾豈ニ此ノ迂濶ヲ學ハシヤト、或ハ云フ、忠孝ナドハ無  
用ノ名目ナリ、文明世界ニ、豈小父小君ニ事フル人アラシ  
ヤトテ、楠公ノ事マデ嘲笑セルアリ、或ハ云フ、家族ノ仕組  
ハ、日本ノ方法ヲ、天下第一トス、父子君臣夫婦ノ際、互ニ相  
タスケ、相スクウ、實ニ万世ノ規則トスベシト、其論鋒ノ銳

利ナル、鄒衍公孫龍モ辟易セシト思フ、其事功ニ施ス所ヲ  
見ルニ、亦怪偉壯麗ヲ主トシ、必人眼ヲ驚カス、唯其マナマ  
ナニシテ一定ナラザルヲ恠シム、知ラズ、人人ノ心ハ必ス  
此ノ如ク別々ナルカ、又ハ學ノ末々、其妙ニ至ラザルカ、  
古人云フ、誰カ鳥ノ雌雄ヲ知ラント、然レモ、本末ヲ了知シ  
テ、之ヲ論說ノ末ニ求メザレハ、必其正キヲ得シ、况ヤ精神  
ノ一事ニ至テハ、易々ノ看ヲ爲スナカレ、人ハ萬物ノ靈ナ  
リ、豈其效ナカルベケシ、故ニ精神一タヒ到レハ、金鏡モ透  
ルホドナルヲ、上等トス、吾楠公ノ七生ヲ期シテ、賊ヲ滅セ  
シトシ、蜀ノ關羽唐ノ張巡カ、死シテモ其面色ノ生ル如キ

ハ、其精神ノ強キ知ルベシ、過日朋友ノ靈ヲ祭レル人アリ、  
甲ハ其祭ヲ無益ノ事ヲチセリト嘲リタリ、乙ハ祭リノ道  
ニ協ヘルヲ論シタリ、余ヲ以テ見レハ、甲ハ祭者ニ對シ無  
禮ノ甚シキ者ナリ、乙ハ祭者ノ味方ナリ同心ノ人ナリ、然  
ルニ、嘲リタル甲ヲ愛慕シテ、味方ナルベキ乙ヲ非トシタ  
リ、全ク人ニハ精神スクナク、死セハ消滅スト思フタルナ  
ラシ、祭者ノ精靈有無ノ点ニ暗キハ、駭ニタラズ、唯甲者ノ  
禮ヲ知ラズ耻ヲ知ラザルニ、駭クナリ、故ニ德義ヲ本トシ  
忠恕ニヨリ、始テ人品モ正シク、人事モ整頓スルヲ覺フ、事  
理ノ本ヲ察セハ、何ソ紛々ノ論說ニ驚キ、迷惑スルアラシ

以テ此大至幸ノ世ニ酬ユ可ケン

言行襍錄

備中阿賀郡實村ノ農民ニ三左衛門伊之助ト云フ、若年ヨ  
リ同居シテ農事ヲツトムル兄弟ノ者アリ、其村ノ枝郷ニ  
成地分ト云フ所ニ、持高ノ中四十石アリシガ、己ガ住メル  
所ヨリハ隔リタレハ、耕作ノ力オヨビガタク、漸々ニ荒蕪  
シタルヲ、三十四年前ニ、弟伊之助ニ譲リ、家ヲモ分チテ、ソ  
ノ田ヲ畊サセケルニ、荒レル所モ、古キニカヘリ、地味モ肥  
テヨロシクナレリ、明和六年ノ飢饉ニ、村々ノモノ、徒黨ヲ  
結ビ、ユカシユニチハキタチケル時モ、兄弟ノモノ、彼ノ

輩ニ與セサルノミナラス、メシツコウ者マテモ慎ミテ、外ニ出ルコトカレト戒シメ、徒黨セル者トモニモ、細々ト教ヘ諭シ、彼方此方ニ離散セシ者トモノ親妻子ナト、飢寒ニテモヘルヲハ、貯ヘタル米ヲアタヘ、牛馬ハ己カ家ニツナキテ養ヒ、其貢ヲ償ヒ納メ、彼輩ノ捨置キタル田ノ、荒レ行コトヲ患ヘテ、下人ヲシテ耕サセタレハ、其行ヒノ奇特ナルヲ賞シテ、御代官平岡彦兵衛野村彦右衛門上聞セリ、御褒美ノ銀下シ賜リ、一代帶刀ヲユルサレ、苗字ハ子孫ニ至ルマテ名ノルヘキ旨ヲ命セラル、又弟伊之助ハ、同レ凶年ノ時、近郷三村ニ貯ヘ置タル雜穀ヲ分テ施シ、ソノ後安永

二年、川上郡ノ村々ナリハヒアシク、飢ニ苦ミシヲ、伊之助カカニテ救ヒシカハ、コレモ御代官野村彦右衛門ヨリ聞ヘアケテ、御褒美ノ銀給ハリヌ、又阿賀郡川上郡二十一村ハ、山ノ中ニテ、地モ瘦タルニ、凶年ニサヘ苦ミケレハ、上ヨリ夫食ヲカシ給ハリシニ、其償ヒ納ムヘキヲタテ無カリシヲモ、伊之助カカヲモテ、返シ納メシカハ、同六年、野村彦右衛門聞ヘ上ゲ、御褒美ノ銀給ハリ、一代帶刀ヲ許サシメタマイ、苗字ハ子孫ニ至ルマテ名乗ヘキ旨、是マタ仰セアリキ、其後天明四年、阿賀川上哲多三郡ノ村々、年荒テ、多クノ民飢ニ及ヒシ時モ、タクハヘタル銀ヲモテ救ヒタスケ

レカハ、其時ノ御代官武嶋左膳ヨリ聞ヘ上テ、次ノ年萬年  
七郎右衛門カハリテ御代官タリシ時、御褒美ノ銀タマハ  
リケリ、此兄弟シテ農業ノ暇ニ、鉄山ヲ見出シテ、十四五年  
前ヨリ、小割鉄トイヘル竿鉄ニ吹ナシ、合セテ千二百束ノ  
ツチ、八百五十束ハ大坂ニ上納シ、三百五十束ハ阿賀哲多  
二郡ノ村ニ分チアタヘテ、貢ギノ未進ヲ償ハセシカハ、寛  
政元年二月、御褒美トシテ銀下シ給ハリケリ、稻垣藤四郎  
御代官ノ時ナリ、

詩文雜評

福善禍淫論

物徂徠

天道福善禍淫、書經湯誥、聖人之言、真實無妄、亘萬世而不

爽、爽、差也。如合符契、而世人多疑不信、不知分與時也、提

時二字、以立綱。分生於命、命定於有生之始、是故人不可以爲

獸、鳥不可以爲草木、松不可以爲柏、以上是命、即分限也。是故魚

游江湖爲福、喪水爲禍、猿入則死、莊周以檮櫟之壽爲

幸、而不能謂黍稷之芟爲不幸、以上分有常也。是故天子爲諸

侯禍也、大夫爲諸侯福也、故知禍福之名、由分而殊、上

說禍福隨分以殊也、三疊是故字、句法或齊整或錯綜。唯世人之惑、概謂猗頓之

富、許史之貴、彭鏗之壽、爲福、猗頓富人、許廣漢史高共漢貴戚、彭祖、鏗、古之

以壽稱者、簞瓢之貧、輿僮之賤、槿蟬之夭、爲禍、槿、其花朝開夕零、蟬、蟬、

此特世俗通稱者耳、而不知己命之所分、孰福孰禍、惑哉。以惑字、一束、桀紂之時、忽插時字、殺戮澤量、唯龍逢比干、善名無窮、豈非福邪、或以見殺為禍者、不知分無生也、夫時者、天之所為也、括時字、文生波瀾、天者、在上之名也、故子之所天者、父也、妻之所天者、夫也、臣之所天者、君也、君之所天者、上天也、唯天不可違、故醜婦雖賢、不獲乎好、色之夫、老臣雖賢、不獲乎好、少之君、時所塞也、句法、一齊一蓋在此、此法物子所獲、他人所不能、止于塞、行于通、故君子不違時以求福、一東、是故涼臺之觀、披風之適、不可獲于冬月、時所無也、以上、是故伊周得位、孔顏得名、或以失位為禍者、

不知時所無也、以上說禍、禍由時、又再疊是故字、是法、故不知分者、不知己也、不知時者、執己也、二也字、執而不知、暗乎天命、而謂聖言不徵、顯起手、是法、豈不惑乎、括惑字、應上、故君子不求福乎命分之外、以命分字、結、禍福ヲ判スルニ命分ヲ以テス、千古ノ卓見ナリ、大凡禍ヲ懼レ、福ニ迷フ者ハ、宜シク此篇ヲ三復シテ、其正ヲ得ヘシ、彼ノ禍福ノ末ニ汲々トシテ、德義ヲ忘レ、唯神佛ニ助手求ルハ、其心亦憫ムベキナラズヤ、

追悼六石片山先生 讀後 中川默堂 會員

釐南樓上翠氤氳先生倚几坐清晨舊侯有命修藩史

誰圖斯着是獲麟。一朝罹病遂疲羸。海南之地文星墜。  
師騎龍矣歸帝京。弟子瞻望空揮淚。誰陪鳩杖心自慵。  
警効無聞感滿腔。平昔講惟受訓勗。而今鉛塹想音容。  
浩嘆無能訴蒼昊。文苑陵夷奈斯道。縱令天上玉樓成。  
碩果盍感遺一老。曾攀士峰絕世豪。磊砢胸中托鬼毫。  
吟天賦地鬼神駭。逸翮鴻名與嶽高。不獨嶽遊有小錄。  
鴻鯉剩編留餘蘊。先生曾著鴻鯉編。一名曰作文軌範。典型矩矱名教垂。  
遂使來裔歸實學。曠竄愧我志難酬。老鶯新鶺雖喚愁。  
六石先生長不朽。文藻光輝耀藻州。

辭致纏綿其師之慕之情紙面之溢。近時弟子之師之

於此稍々心ヲ盡ス少シ余默堂ニ於テ古道ヲ守ルヲ欽  
ス

謁菅公祠

陸奧 谷山春窗 名丁會員

西海東山德澤悠千年。朝野布餘流。祠頭一樹梅花影。  
香遍扶桑六十州。枕山批点

菅公ノ德ニ梅花ヲ配シ以テ比トス湊合大ニ妙ナリ  
大沼枕山曰梅花二字映扶桑妙

讀弘道新說用間中雲颿翁韻二首

讀岐 近藤石顛 名同會員

舉世紛々輕薄兒。唯看習俗逐年移。幸然新說垂模範。

堪護先王仁義基

石顛篆刻ヲ善シ、詩書和歌ノ諸事皆衆ニ擢ク、而其愛國ノ心最モ重シ、余カ欽羨スル所ナリ、

明治二十一年十一月五日 印刷  
同 年十一月二十日 出版

東區淡路町一丁目十六番地

愛媛縣士族

著述兼發行者 藤澤南岳

東區南久寶寺町四丁目九番地  
大阪府平民

印刷者 岡島幸次郎





